

博士前期課程 / 先端成人看護学

【先端成人看護学特講Ⅰ】

責任教員	千葉由美				
担当教員	千葉由美、森川真理（非常勤）、大西達夫（非常勤）				
学年・期	医学研究科看護学専攻・1年・前期		必/選・単位数（時間数）	選択・2単位（30時間）	
科目の概要・目標	高度医療機関などで専門的、先進的成人看護を必要とする成人期から向老期、老年期に至る人々の特有の疾患に対応すべく看護分野に関連する健康問題や理論等を概観し、対象における特有の疾患の予防から終末期に至るまでの質の高い看護実践に必要な理論を学ぶとともに、患者、ならびにその家族の体験等を探究する。 科目の目標： 1. 専門的、先進的看護を必要とする成人期から向老期、老年期にかけての看護領域で用いられている諸概念や理論について概観し、高度看護実践の観点から理解する。 2. 専門的、先進的看護を必要とする成人期から向老期、老年期の高度看護実践の質的向上のために、諸概念や理論、関連する研究論文の活用法について理解する。				
科目の内容	専門的、先進的看護を必要とする成人期から向老期、老年期にかけての看護分野に関連する諸概念や理論について学び、高度看護実践の観点から理解を深める。成人期から向老期、老年期にかけての看護に関連する主要な理論と研究論文の活用について、高度看護実践の質的向上の観点から吟味する。全人的に人（その家族）を捉え、社会の反応を説明する理論と研究について理解を深める。実践者・研究者としての高い職業倫理観と責任感を培う。				
方法・授業の進め方	高度看護実践の質的向上をめざし、専門的、先進的看護を必要とする成人期から向老期、老年期にかけての看護分野における諸概念や理論と関連する研究論文について理解を深め、学術的指向性を高める。 グローバルな視点で学習が図れるよう体制を整備する。 本授業の円滑な運営をはかるために、授業内容の調整をはかりつつ運営していく。初回のオリエンテーションにおいて講義の全体構成と展開について説明し、専門的、先進的看護が必要となる看護領域での理論と実践への関連性を考慮しながら学習を行う。高度看護実践の質向上の観点から理論と研究論文の活用を図るため、講義、ディスカッション、プレゼンテーションにより、授業を展開する。				
授業回数	回数	授業計画		教員氏名	備考
	1	ガイダンス：成人期に関連した看護の定義・理論、看護理論の評価		千葉由美	
	2	ストレス・コーピング/適応に関する理論1 理論の背景と概要、特徴		千葉由美	
	3	ストレス・コーピング/適応に関する理論② 実践・研究への活用		千葉由美	
	4	危機と介入に関する理論：危機理論① 理論の背景と概要、特徴		千葉由美	
	5	危機と介入に関する理論：危機理論② 実践・研究への活用		千葉由美	
	6	セルフケア（不足）に関する理論① 理論の背景と概要、特徴		千葉由美	
	7	セルフケア（不足）に関する理論② 実践・研究への活用		千葉由美	
	8	ケアリングに関する理論① 理論の背景と概要、特徴		千葉由美	
	9	ケアリングに関する理論② 実践・研究への活用		千葉由美	
	10	臨床看護実践に基づく理論① 家族支援に関する理論の背景と概要、特徴		森川真理 (非常勤)	高度実践
	11	ヘルスプロモーション理論 理論の背景と概要、特徴、実践・研究への活用		千葉由美	
	12	健康行動理論 理論の背景と概要、特徴、実践・研究への活用		千葉由美	
	13	全体性のパラダイムに基づく理論 M. Rogers の理論		千葉由美	
	14	臨床看護実践に基づく理論② Comfort 理論等		千葉由美	
	15	先進的な医療・看護における倫理 先進医療における法務と倫理		大西達夫 (非常勤)	弁護士・弁理士
成績評価方法	・ レポート、プレゼンテーション及び討議への参加状況、出席状況等によって総合的に評価する。 ・ レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 ・ プレゼンテーション及び討議への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。 ・ 出席を原則とする。				
受講上の注意・準備性	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な参加をするよう期待する。資料は、授業3日前までに準備し、参加者に配布あるいは配付すること。				
教科書・参考書等	適宜提示する。				
SDGs ゴール目標	3, 4, 17				

【先端成人看護学特講Ⅱ】

責任教員	千葉由美			
担当教員	千葉由美, 卯野木健 (非常勤), 田中真琴 (非常勤), 重富杏子 (非常勤), 斉藤綾 (非常勤), 熊谷研 (非常勤), 湯川寛夫 (非常勤), 富樫優 (非常勤), 金子猛 (非常勤), 大井康史 (非常勤), 吉見竜介 (非常勤), Maria Molina (非常勤), 大井康史 (非常勤), 佐伯拓也 (非常勤), 遠藤美代子 (非常勤)、金井静絵 (非常勤)			
学年・期	医学研究科看護学専攻・1年・後期		必/選・単位数 (時間数)	選択・2単位 (30 時間)
科目の概要・目標	高度医療機関等における専門的、先進的医療・看護を必要とする疾患の病態・治療の最新の知見を踏まえつつ、的確なアセスメントやケア等の高度看護実践に必要な知識や能力を養う。特にこれら医療・看護によってもたらされる患者やその家族の心身、日常生活、社会的な側面の変化を深く捉え、対象者らが自ら生活の質 (QOL) を高めることができるよう医療人による病院から在宅に至る一貫した援助のあり方について考察する。具体的に先進医療における集学的治療からギアチェンジならびにその後に訪れる向老期、老年期あるいは終末期の医療に伴う事象をホリスティックに捉え、高度実践者・研究者としての役割開発の視点を養う。 科目の目標: 1. 専門的、先進的看護を必要とする疾患の病態・治療に関する最新の知見を踏まえて、高度看護実践のあり方について理解を深める。 2. 成人期から老年期にいたる年代での専門的、先進医療といった集学的治療によってもたらされる心身、日常生活、社会的な側面の変化をホリスティックに捉え、高度実践者・研究者としての役割開発の視点を養う。 3. 専門的、先進的医療を受ける成人期、向老期、あるいは老年期までの患者やその家族の QOL に主眼を置いた治療・回復過程における一連の高度看護実践について考察する。			
科目の内容	専門的、先進的看護を必要とする疾患の病態、病理、診断と治療、様々な治療法 (手術療法、補助療法、再生医療・移植医療を含む) などの実際について最新の知見を基に具体的事例も踏まえながら授業を展開する。集学的治療に伴う高度医療・実践について理解を深め、的確なアセスメントやケア等の高度実践看護の視点を養う。患者やその家族の QOL をより高めることができるような質の高い治療補助業務及び日常生活援助の方法論、および病院から在宅までを視野に入れた援助のあり方について考察を深める。			
方法・授業の進め方	専門的、先進的看護が必要な疾患に関する病態生理、先進的治療に伴う高度実践看護について理解を深めるため、最新の知見と具体的事例を踏まえる等で授業運営を図る。また、集学的治療に伴う予防・回復・終末期などといった様々な段階における病院から在宅に至るまでの一貫した包括的医療や看護について学べるよう学習の推進を図る。講義、ディスカッション、プレゼンテーションにより、具体的な議論を取り入れながら授業を展開する。			
授業回数	回数	授業計画	教員氏名	備考
	1	医療や看護に関する国内外の動向と課題	千葉由美	
	2	AACN synagy model for patient care をはじめとする急性期看護の動向	卯野木健 (非常勤)	急性期
	3	成人期における重症患者・家族の意思決定の理論	田中真琴 (非常勤)	慢性期
	4	高度実践看護を取り巻く急性期医療・看護と課題①	重富杏子 (非常勤)	診療看護師
	5	先進的医療と高度看護実践① 心血管疾患患者の病態と治療・管理	斉藤綾 (非常勤)	外科医
	6	先進的医療と高度看護実践② 筋骨格疾患患者の病態と治療・管理 (再生医療含む)	熊谷研 (非常勤)	外科医
	7	先進的医療と高度看護実践③ 消化器・肺疾患患者の外科治療と管理	湯川寛夫 (非常勤)	外科医
	8	先進的医療と高度看護実践④ 重度代謝疾患患者の病態と治療・管理	富樫優 (非常勤)	内科医
	9	先進的医療と高度看護実践⑤ 呼吸器病患者の病態と治療・管理	金子猛 (非常勤)	内科医
	10	先進的医療と高度看護実践⑥ 膠原病患者の病態と治療・管理 (再生医療含む)	吉見竜介 (非常勤)	内科医
	11	先進的医療と高度看護実践⑦ 米国におけるナースプラクティショナーの役割について	Maria Molina (非常勤)	米国・英語
	12	先進的医療と高度看護実践⑧ 外傷患者の病態と治療・管理	大井康史 (非常勤)	救急医
	13	先進的医療を受ける患者へのリハビリテーション (ICU)	佐伯拓也 (非常勤)	ICU・PT
	14	先進的医療における看護専門職の高度看護実践 先進医療のサポート体制とコーディネート (VAD・心移植等)	遠藤美代子 (非常勤)	人工心臓管理 技術認定士
	15	重症患者への継続ケア 継続看護部門・地域連携室の実際と課題	金井静絵 (非常勤)	高度実践
成績評価方法	・レポート、プレゼンテーション及び討論への参加状況、出席状況等によって総合的に評価する。 ・レポートについては、課題に即した論証性・内容性 (文献や具体例などの活用) ・表現性などを重視する。 ・プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加え、ディスカッション能力も重視する。 ・出席を原則とする。			
受講上の注意・準備性	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な参加をするよう期待する。資料は、授業3日前までに準備し、参加者に配布あるいは配信すること。			
教科書・参考書等	適宜提示する。			
SDGs ゴール目標	3, 4, 17			

【先端成人看護学特講Ⅲ】

責任教員	千葉由美			
担当教員	千葉由美、毛受契輔（非常勤）、卯野木健（非常勤）、田中真琴（非常勤）、工藤享（非常勤）、秋本大輔（非常勤）、日比潔（非常勤）、澤田雄（非常勤）、寺西淳一（非常勤）、柏木静（非常勤）、中村謙介（非常勤）、Maria Molina（非常勤）、石上友章（非常勤）、岡村正嗣（非常勤）、馬淵俊介（非常勤）			
学年・期	医学研究科看護学専攻・1年・後期	必/選・単位数（時間数）	選択・2単位（30時間）	
科目の概要・目標	高度医療機関等における専門的、先進的医療・看護を必要とする疾患の病態・治療の最新の知見を踏まえつつ、的確なアセスメントやケア等の高度看護実践に必要な知識や能力を養う。変革しつつある医療の制度や体制を踏まえながら、医療によってもたらされる患者やその家族に対する高度実践看護、チーム医療の視点からみた実践者・研究者の援助方法を理解、評価し、新たな援助方法の開発の視点を養う。 科目の目標： 1. 専門的、先進的看護を必要とする疾患の病態・治療に関する最新の知見を踏まえて、高度看護実践のあり方について理解を深める。 2. 専門的あるいは先進的医療提供の場での高度な医療・看護の実践について理解する。 3. 医療制度・体制の実態と課題を追求し、予防から看取りまでの高度実践看護の視点から見た実践者・研究者としての新たな援助方法について探究する。			
科目の内容	日本における成人期から向老期、老年期にかけての疾患に関する高度医療機関等における専門的、先進的医療の動向と実際、医療制度や体制に関する現状と課題について追求する。さらに、専門的、あるいは先進的医療における高度看護実践・研究活動における看護職の役割と課題を探求し、実践者・研究者としての視点から援助方法の開発や展開を試みる。			
方法・授業の進め方	医療制度や体制の実態と課題を踏まえ、高度実践を担う看護師としての役割と課題を探求し、新たな援助方法の開発の視点を養うこと等を目的に、専門性の高い授業を展開する。専門領域の観点からコアとなる看護実践とは何かを学術的に探究していく。授業内容の一貫性の担保等が科目運営上重要となることから、本授業の円滑な運営をはかれるよう調整を図りながら講義、ディスカッション、プレゼンテーション等により進める。日本における近年の成人期から向老期、老年期までの対象に関連した医療の動向と課題、とりわけ先進（的）医療における現状と課題についての理解を深める。さらに、高度実践看護を担う看護専門職の役割と課題について理解を深め、役割の観点から、チェンジ・エージェントとしての機能を果たせるよう援助方法の開発や展開を試みる素養を身に着ける。具体的には国内外の先駆的実践活動、効果の示された臨床研究等の成果や臨床での具体的事例等をもとに、参加教員と学生からのプレゼンテーション、ディスカッション等により新たな看護領域の援助方法の開発や展開について討議する。			
授業回数	回数	授業計画	教員氏名	備考
	1	先進的医療における看護専門職の高度看護実践① 海外における Nurse Practitioner の活動	毛受契輔 (非常勤)	米国・NP
	2	先進的医療が必要な重症患者のアセスメント・合併症管理① 呼吸器（肺）患者のケア・管理	卯野木健 (非常勤)	急性期
	3	先進的医療における看護専門職の高度看護実践② 患者・家族の意思決定支援	田中真琴 (非常勤)	慢性期
	4	先進的医療が必要な重症患者のアセスメント・合併症管理② 循環器関連のデバイスが必要とする患者のケア・管理	工藤享 (非常勤)	診療看護師
	5	先進的医療と高度看護実践の展望① 脳血管疾患患者の病態と治療・管理	秋本大輔 (非常勤)	外科医
	6	先進的医療と高度実践看護の展望② 循環器のインターベンション治療・管理	日比潔 (非常勤)	内科医
	7	先進的医療と高度実践看護の展望③ 重症肝疾患患者の病態と治療・管理	澤田雄 (非常勤)	外科医
	8	先進的医療と高度実践看護の展望⑦ 泌尿器疾患患者の病態と治療・管理	寺西淳一 (非常勤)	外科医
	9	先進的医療と高度実践看護の展望④ 重症感染症、敗血症、多臓器不全患者の病態と治療・管理	柏木静 (非常勤)	GICU 医
	10	先進的医療と高度実践看護の展望⑤ 急性期の栄養療法とリハビリテーション	中村謙介 (非常勤)	ICU 医
	11	先端成人看護における高度援助法の理解③ 心臓移植 NP の役割と活動の実際	Maria Molina (非常勤)	英語・DNP
	12	先進的医療と高度実践看護の展望⑥ 循環器疾患患者の病態と治療・管理	石上友章 (非常勤)	内科医
	13	先進的医療と高度実践看護の展望⑦ 先進的医療を受ける患者へのリハビリテーション（心臓）	岡村正嗣 (非常勤)	ドイツ・PT
	14	先端成人看護における高度援助法の理解① 医療過誤事案における医療人の法的責任	馬淵俊介 (非常勤)	弁護士
	15	先端成人看護における高度援助法の理解② 看護教育のエビデンスに基づいた援助法とその効果	千葉由美	
成績評価方法	・レポート、プレゼンテーション及び討論への参加状況、出席状況等によって総合的に評価する。 ・レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 ・プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。 ・出席を原則とする。			
受講上の注意・準備性	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な参加をするよう期待する。資料は、授業3日前までに準備し、参加者に配布あるいは配信すること。			
教科書・参考書等	適宜提示する。			
SDGs ゴール目標	3, 4, 17			

【先端成人看護学演習Ⅰ】

責任教員	千葉由美				
担当教員	千葉由美、芳賀優樹（非常勤）、宮森真璃絵（非常勤）、鈴木陽子（非常勤）、吉田友美（非常勤）、三浦友也（非常勤）、辻本真由美（非常勤）、佐伯玲菜（非常勤）、荒木昌美（非常勤）、鈴木姿子（非常勤）、安川奈緒美、（非常勤）、松浦恵子（非常勤）				
学年・期	医学研究科看護学専攻 ・1年・前期		必/選・単位数（時間数）	選択・2単位（60時間）	
科目の概要・目標	先端成人看護領域では、何らかの要因によって身体を構成する臓器や組織に障害をきたし、高度専門、先進医療や高度看護実践を必要とする生命の危機に直結する疾患や状態に対し、適切な臨床判断や実践、および安楽で安寧な患者や家族の成果を得るために、最新の高度専門、先進医療の知見や技術を身に着ける。合わせて自身の関心のある文献の論評、および各自が関心ある領域に関する看護研究文献のレビューを行う。高度実践看護職に求められる資質向上に関連した課題を追究する。 科目の目標： 1. 先端成人看護学の観点から高度実践看護に求められる知識・実践、システムに関連した実際を学ぶとともに、課題について探究する。 2. 先端成人看護学で取り扱う看護支援に関連した文献の論評、および各自が関心ある領域に関する研究文献のレビューを行い、研究者としての基本的姿勢を身につける。				
科目の内容	国内外における高度専門、先進医療や高度看護実践に関する知識を得るとともに、研究論文の文献レビューを行い、各自の関心のあるテーマを中心とする文献の論評を通して、高度実践看護の援助について考察する。また、スペシャリストとしての観点から、研究者・高度実践看護を担う看護師の役割について検討する。これらの演習を基に、先端成人看護の観点から看護実践を改革・改善するための課題を明らかにする。				
方法・授業の進め方	本演習は、先端成人看護学分野において高度実践看護を担う看護師・研究者に求められる最新の知識や技術を学ぶとともに、研究論文のレビューと論評をもとにした高度実践看護を担う看護師および高度実践看護のあり方の検討を行う。責任教員が初回で演習全体の構成と内容を具体的に説明する。国内外の文献検索の方法、活用と整理、論評の視点について指導する。全員が授業に積極的に参画し、運営に携わる。オリエンテーション、フィールドワーク計画の立案、実施と資料の整理のプロセスにおいて教員、参加者が専門的立場から指導、相談する体制で臨む。プレゼンテーション・ディスカッションを通して、研究者・高度実践看護を担う実践者に求められる実践・教育・相談・調整等といった役割と自主性を身に着けるよう心掛ける。				
授業回数	回数	授業計画		教員氏名	備考
	1-4	先端成人看護に関する高度技術と実践・研究に向けて 先端成人看護に関する高度実践看護の定義・概念化		千葉由美	
	5-12	先端成人看護に関する高度技術と実践(1)～(2) ME 機器センターの役割と高度医療・看護の実際		千葉由美 芳賀優樹 (非常勤)	ME
	13-28	先端成人看護に関する高度技術と実践(3)～(4) 高度医療・看護の実際 先端成人看護に関する高度技術と実践(4) (5) 高度実践看護師の役割と実際①：周麻酔 〃 ②：手術		千葉由美 宮森真璃絵 (非常勤) 鈴木陽子 (非常勤)	高度実践 高度実践
	29-36	先端成人看護に関する高度技術と実践(7) (8) 高度実践看護師の役割と実際③：集中・クリティカル 〃 ④：救急		吉田友美 (非常勤) 三浦友也 (非常勤)	高度実践 高度実践
	37-40	先端成人看護に関する高度技術と実践 (9) 高度実践看護師の役割と実際⑤：急性・重症		辻本真由美 (非常勤)	高度実践
	41-48	先端成人看護に関する高度技術と実践(10) (11) 高度実践看護師の役割と実際⑥：緩和 〃 ⑦：気切・ろう		佐伯玲菜 (非常勤) 荒木昌美 (非常勤)	高度実践 高度実践
	49-56	先端成人看護に関する高度技術と実践(12) (13) 高度実践看護師の役割と実際⑧：慢性疾患 〃 ⑨：慢性心不全		鈴木姿子 (非常勤) 安川奈緒美 (非常勤)	高度実践 高度実践
	57-60	先端成人看護に関する高度技術と実践(14) (15) 高度実践看護師の役割と実際⑩：移植コーディネート		松浦恵子 (非常勤)	高度実践
	成績評価方法	・レポート（調査計画・課題）、プレゼンテーション及び討論への参加状況、出席状況等によって総合的に評価する。 ・レポートについては、課題に即した論証性・内容性（文献や具体例などの活用）・表現性などを重視する。 ・調査計画では、計画書の妥当性ならびに実施状況を重視する。 ・プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。 ・出席を原則とする。			
受講上の注意・準備性	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な参加をするよう期待する。事前課題の具体的内容は各回のテーマに関する高度看護実践ならびに関連研究の文献レビューとする。				
教科書・参考書等	適宜提示する。				
SDGs ゴール目標	3, 4, 17				

【先端成人看護学演習Ⅱ】

責任教員	千葉由美				
担当教員	千葉由美				
学年・期	医学研究科看護学専攻・1年・後期		必/選・単位数(時間数)	選択・2単位(60時間)	
科目の概要・目標	先端成人看護に関連する文献の論評、および各自が関心を有する領域の看護研究へのアプローチ法を実践的に教授する。Evidence-Based Nursingに基づく研究・実践課題への取り組み方を学ぶ。 科目の目標： 1. 先端成人看護学におけるテーマに関連する文献(手術療法、集学的治療、臓器・幹細胞移植、リハビリテーション、緩和ケア、様々な症候、予防等の看護、システム等)の論評、および各自が関心ある領域に関する研究文献のレビューおよび論評を行う。 2. EBNに基づく研究・実践課題への取り組みの実際を学ぶ。				
科目の内容	国内外の先端成人看護に関する研究論文の文献レビューを行い、各自の関心を有するテーマを中心とする文献の論評を通して、看護研究・実践のアプローチ法について考察する。また、研究者あるいは実践者の観点から、研究・高度看護実践のあり方について検討する。これらの演習を基に、臨床における改革・改善するための課題を明らかにする。				
方法・授業の進め方	本演習は、研究論文のレビューと論評などをもとにした看護研究・実践能力を養うための内容によって構成されている。責任教員が演習全体の構成と内容を運営する。レビューと論評のプロセスにおいては参加者全員が参画し、専門的立場から、建設的な意見や適切な指導を行う体制で臨む。授業は、各自の関心領域における先行研究による成果を基にした抄読会形式により展開する。				
授業回数	回数	授業計画		教員氏名	備考
	1-4	国内外の先端成人看護に関する研究の動向(1) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等(オリエンテーション含む)		千葉由美	
	5-12	国内外の先端成人看護に関する研究の動向(2)(3) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
	13-20	国内外の先端成人看護に関する研究の課題(1)(2) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
	21-28	国内外の先端成人看護に関する研究の課題(3)(4) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
	29-36	国内外の先端成人看護に関する研究論文の論評(1)(2) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
	37-40	国内外の先端成人看護に関する研究論文の論評(3) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
	41-48	国内外の先端成人看護に関する研究論文の論評(4)(5) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
	49-56	国内外の先端成人看護に関する研究論文の論評(6)(7) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
	57-60	国内外の先端成人看護に関する研究論文の論評(8) 各自の関心のあるテーマを中心とする先端成人看護研究に関する文献レビュー等		千葉由美	
成績評価方法	・レポート(調査計画・課題)、プレゼンテーション及び討論への参加状況、出席状況等によって総合的に評価する。 ・レポートについては、課題に即した論証性・内容性(文献や具体例などの活用)・表現性などを重視する。 ・調査計画では、計画書の妥当性ならびに実施状況を重視する。 ・プレゼンテーション及び討論への参加度では、論証性・内容性・表現性に加えディスカッション能力も重視する。 ・出席を原則とする。				
受講上の注意・準備性	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、関連論文をレビューし、各回の授業で要約や内容を発表すること。主体的な参加をするよう期待する。				
教科書・参考書等	適宜提示する。				
SDGs ゴール目標	3, 4, 17				

【先端成人看護学特別演習】

責任教員	千葉由美			
担当教員	千葉由美			
学年・期	医学研究科看護学専攻・2年・通年	必/選・単位数(時間数)	選択・4単位(120時間)	
科目の概要・目標	先端成人看護に関連した国内外の高度医療機関等における高度看護実践の実際を把握・理解するとともに、先端成人看護領域における看護活動の課題や看護職の果たすべき役割を明確化する。これらはフィールドワークを通じて体験的理解を深められるにするとともに、課題解決のための具体的方法を導く。 科目の目標： 1. 先端成人看護に関連した高度医療機関等における高度看護実践の実際から課題や看護職のはたすべき役割を明確化することができる。 2. 課題解決のための具体的方法について提示することができる。			
科目の内容	高度医療機関等の実態について高度看護実践を行う看護師の視点から調査し、課題や役割を検討する。これらの演習を基に、先端成人看護における実践を改革・改善するための具体的方法を検討する。			
方法・授業の進め方	本演習は、①高度医療機関等における高度看護実践のフィールドワークに関する計画立案、②フィールド調査を通じて、高度看護実践における課題を明らかにし、課題解決のための内容を検討する。責任教員が初回で演習全体の構成と内容を具体的に説明する。プロゼンテーション・ディスカッションを通じて、看護領域の専門職としての役割を検討し、各施設における課題と改革・改善のための具体的方法について考える。なお、これらは参加者全員のもとに実施する。			
授業回数	回数	授業計画	教員氏名	備考
	1	オリエンテーション、進め方、評価について	千葉由美	
	2-20	研究・活動計画立案		
	21-30	課題把握、研究遂行のための妥当性検討		
	31-40	研究・活動計画の修正		
	41-50	実現可能性の検討(フィールドワークを含む)		
	51-59	研究計画の修正(フィールドワークを含む)		
	60	総括		
成績評価方法	レポート、プレゼンテーションおよび討議への参加、出席状況によって、総合的に判断する。			
受講上の注意・準備性	自律的かつ主体的な参加を希望する。			
教科書・参考書等	適宜提示する。			
SDGs ゴール目標	3, 4, 17			

【先端成人看護学特別研究】

責任教員	千葉由美		
担当教員	千葉由美		
学年・期	医学研究科看護学専攻・2年・通年	必/選・単位数(時間数)	選択・8単位(240時間)
科目の概要・目標	先端成人看護学では、高度専門機関等で対応が必要とされるような重症疾患、あるいはより重症な状況を呈する患者を含む成人期以降の患者に対して、先進的・集学的治療、さらに合併症・症候管理等を含む体系的・継続的な対応や活動、予見的な健康問題について活動展開すべく新規性、独自性の高い課題を設定し、探究する。研究課題は、予防、治療・看取り等、成人系のテーマを幅広く設定し、活動の場も病院・施設・在宅と様々な場に対応することとする。昨今の多様な看護活動における医療問題について、自らの知識や経験から“先駆的研究テーマ”を抽出・選択し、“適切な研究手段”をもって、プロダクト（修士論文）を作り上げるといった“研究プロセス”の実際を学ぶ。 同時に、研究成果の学術的手段を用いた社会還元（学会や論文での発表）、臨床応用などの研究者としての基本姿勢や役割を学ぶ。 科目の目標： 1. 先端成人看護学における先駆的研究課題を自ら探索・特定できる。 2. 研究課題に応じた適切な研究デザイン設定ができる。 3. フィールドワークに必要な手続き、具体的作業がわかる、準備できる。 4. 論文作成ができる。 5. 発表準備ができる。 6. 研究プロセスで必要とされる相談や調整ができる。		
科目の内容	システマティックレビュー（国内外）と課題抽出・選定 1. 研究デザインの設定（計画書作成） 2. 倫理審査の準備 3. フィールドワークのための準備（調査機関との調整など） 4. データ収集と分析 5. 論文作成 6. 発表準備 7. 研究プロセスの振り返り 8. その他		
方法・授業の進め方	講義、演習（ゼミ）、個別指導とする。全体の状況を見て、適宜、変更・調整する。		
成績評価方法	看護学専攻修士論文評価基準等に基づき評価する。		
受講上の注意・準備性	各回の授業に向けて提示した事前課題や指定する資料等の内容を確認するとともに、自律的で主体的な取り組みを期待する。なお、欧文抄読が必須となるので、英語を十分に学習しておくこと。		
教科書・参考書等	適宜、提示する。		
SDGs ゴール目標	3, 4, 17		

【看護研究方法論演習】

責任教員	千葉由美			
担当教員	千葉由美			
学年・期	医学研究科看護学専攻博士前期課程 1年・通年	必/選・単位数(時間数)	選択・1単位(30時間)・演習	
科目の概要・目標	看護学の各専門領域における研究成果を国際的に発信していくための具体的方法と内容について演習方式で学習する。 科目の目標: 1. 活動や研究の成果を公表するための一連の流れが理解できる。 2. 活動や研究の成果を公表するための具体的な準備内容や注意点が理解できる。			
科目の内容	看護学の各専門領域における研究のプロセスにおいて、研究者あるいは高度な専門的な業務を遂行する実践者の活動成果を国際的に発信していくための基本的な知識と技術を知る。			
方法・授業の進め方	活動や研究の成果を公表するための流れや具体的内容を理解するために、講義にて基本的事項を抑えるとともに、実際に学会や学術論文の公表に向けての抄録、論文、パワーポイントの作成、さらにはプレゼンテーションを実際に体験しながら展開する。			
授業回数	回数	授業計画	教員氏名	備考
	1-2	What is a scientific paper Structure of a scientific paper Structure of an international presentation :oral and poster (1)	千葉 由美	博士後期課程 「看護学研究論演習」 との合同授業
	3	Scientific writing (1) Introductions	千葉 由美	
	4	Structure of an international presentation :oral and poster (2)	千葉 由美 H MacCallum	
	5-6	Scientific writing (2) Materials and methods Effective tables, graphs and photographs	千葉 由美	
	7	Structure of an international presentation :oral and poster (3)	千葉 由美 H MacCallum	
	8	Scientific writing (3) Results	千葉 由美	
	9	International presentation practice: conference style Discussion	千葉 由美 H MacCallum	
	10-11	Scientific writing (4) Discussion Acknowledgement References	千葉 由美	
	12-13	Scientific writing (5) Title, abstracts, and authors Who should be an author How to write a letter	千葉 由美	
14-15	Electronic submissions, preprint, and open access, etc. Style :what it is and why it matters	千葉 由美		
成績評価方法	プレゼンテーションおよび討論 : 80%、レポート : 20%			
受講上の注意・準備性	・各回の授業に向けて提示した事前課題を準備した上で参加に臨むこと。 ・指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な参加をするよう期待する。			
教科書・参考書等	・George M. Hall(ed.) (2012): How to write a paper. 5th edition, Blackwell Publishing. 他、適宜提示する。			
SDGs ゴール目標	3, 4, 17			

博士後期課程 / 機能再生看護学

【機能再生看護学特論】

【責任教員】 千葉由美

【担当教員】 千葉由美

【学年・期】 医学研究科看護学専攻博士後期課程 1年・前期

【必選・単位数（時間数）】 選択・2単位（30時間）・講義

【科目の内容】

病院、施設等で治療・療養中の重度疾患や摂食嚥下障害等の臨床症状を有する成人から高齢期にある患者の機能向上や自立支援における課題について、機能再生を促すより高度な実践看護の開発基盤となる理論体系を探究する。

【授業計画】

【成績評価方法】

回数	授業計画	教員氏名	備考
1	Orientation	千葉由美	
2-3	Exploring health issues at the cutting edge of medical practice		
4-5	Research theory and framework of advanced regenerative nursing		
6-7	Research and approach related to advanced regenerative nursing		
8-12	Application of effectiveness in advanced regenerative nursing —Systematic/Scoping review —Protocols/Guideline —Outcome/Economic management —Development of measurement —Structure of intervention research		
13-14	Overviewing and development of symptom management, advanced regenerative nursing practice, and care system		
15	総括		

プレゼンテーションおよび討論：50%、レポート：50%

【教科書・参考書等】

- ・ Trisha Greenhalgh(2019). How to read a paper—the basics of evidence-based medicine and healthcare 6th edition. Wiley Book well.
- ・ Clifford S. Deutschman(2019). Evidence—based practice of critical care. 3rd edition. Elsevier.
- ・ George M. Hall (2020). How to write a paper. 5th edition. BMJ Books.
- ・ Denise Polit, Chery Beck(2021). Essentials of nursing research: Appraising evidence for nursing practice. 10th edition. Wolters Kluwer.
- ・ Ann MR Agur et al. ed (2024). Grant's atlas of anatomy. Wolters Kluwer.
- ・ Wojciech Pawlina ed(2023).Histology a test and atlas. Wolters Kluwer.
- ・ Peter X. MA ed(2014).Biomaterials and regenerative medicine. Cambridge.
- ・ Asok Mukhopadhyay, ed(2018). Regenerative medicine: Laboratory to clinic. Springer.
- ・ Wahid Serpushan ed(2019).Cardiovascular regenerative medicine. Springer.
- ・ Ayse Begum Tekinay ed(2019). Nanomaterials for regenerative medicine (stem cell biology and regenerative medicine). Humana Press.
- ・ Janthorsten Schantz(2015). Advanced therapies in regenerative medicine (Current therapies in regenerative

medicine). World scientific.

- American nurse association(2016). Transplant nursing-Scope and standards of practice 2nd edition. Nursing standards.

他、適宜提示する。

【SDGs ゴール目標】

3、 4、 17

【看護学特別演習（機能再生看護学）】

【責任教員】 千葉由美

【担当教員】 千葉由美

【学年・期】 医学研究科看護学専攻博士後期課程 1年・後期

【必修・単位数（時間数）】 必修・2単位（60時間）・演習

【科目の内容】

病院、施設等で治療・療養中の重度疾患や摂食嚥下障害等の臨床症状を有する成人期から高齢期にある患者の機能向上や自立支援のために、機能再生を促すより高度な実践看護の開発に関連する研究動向と課題について多角的、系統的にレビューを行い、研究課題を明確化できるよう指導する。

【授業計画】

【成績評価方法】

プレゼンテーションおよび討論：50%、レポート：50%

【教科書・参考書等】

回数	授業計画	教員氏名	備考
1	オリエンテーション	千葉由美	
2-5	機能再生看護学における研究動向		
6-9	機能再生看護学における研究論文のクリティーク		
10-13	機能再生看護学における研究課題		
14-17	機能再生看護学における理論と実証		
18-21	機能再生看護学における研究論文の批判的吟味		
22-25	機能再生看護学における研究の知見と技術の統合		
26-29	機能再生看護学における研究課題の明確化		
30	総括		

Clifford S. Deutschman(2019). Evidence-based practice of critical care. 3rd edition. Elsevier.

- ・ Peter X. MA ed(2014). Biomaterials and regenerative medicine. Cambridge.
- ・ Asok Mukhopadhyay, ed(2018). Regenerative medicine: Laboratory to clinic. Springer.
- ・ Wahid Serpushan ed(2019). Cardiovascular regenerative medicine. Springer.
- ・ Ayse Begum Tekinay ed(2019). Nanomaterials for regenerative medicine (stem cell biology and regenerative medicine). Humana Press.
- ・ Janthorsten Schantz(2015). Advanced therapies in regenerative medicine (Current therapies in regenerative medicine). World scientific.
- ・ American nurse association(2016). Transplant nursing-Scope and standards of practice 2nd edition. Nursing standards.

他、適宜提示する。

【SDGs ゴール目標】

3、4、17

【看護学特別研究Ⅰ（機能再生看護学）】

【責任教員】 千葉由美

【担当教員】 千葉由美

【学年・期】 医学研究科看護学専攻博士後期課程 1年・後期

【必修・単位数（時間数）】 必修・2単位（60時間）・演習

【科目の内容】

病院や施設等で治療・療養中の重度疾患や摂食嚥下障害等の臨床症状を有する成人期から高齢期にある患者の機能向上や自立支援のために、機能再生を促すより高度な実践看護の開発に関連する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。

【授業計画】

【成績評価方法】

プレゼンテーションおよび学修姿勢：20%、研究計画書およびレポート：80%

回数	授業計画	教員氏名	備考
1	オリエンテーション	千葉由美	
2-3	機能再生看護学における研究テーマのパラダイム		
4-11	研究テーマの検討・評価		
12-17	研究テーマに即した研究デザインの検討・吟味		
18-26	研究計画書の立案		
27-30	研究計画書の完成		

【教科書・参考書等】

- ・ Peter X. MA ed(2014).Biomaterials and regenerative medicine. Cambridge.
 - ・ Asok Mukhopadhyay, ed(2018). Regenerative medicine: Laboratory to clinic. Springer.
 - ・ Wahid Serpushan ed(2019).Cardiovascular regenerative medicine. Springer.
 - ・ Ayse Begum Tekinay ed(2019). Nanomaterials for regenerative medicine (stem cell biology and regenerative medicine). Humana Press.
 - ・ Janthorsten Schantz(2015). Advanced therapies in regenerative medicine (Current therapies in regenerative medicine). World scientific.
 - ・ American nurse association(2016). Transplant nursing-Scope and standards of practice 2nd edition. Nursing standards.
 - ・ Clifford S. Deutschman(2019). Evidence—based practice of critical care. 3rd edition. Elsevire.
 - ・ George M. Hall(2020). How to write a paper. 5th edition. BMJ Books.
 - ・ Sharon E. Straus, Paul Glasziou(2018). Evidence-based medicine: How to practice and teach EBM. Elsevier.
- 他、適宜提示する。

【SDGs ゴール目標】

3、4、17

【看護学特別研究Ⅱ（機能再生看護学）】

【責任教員】 千葉由美

【担当教員】 千葉由美

【学年・期】 医学研究科看護学専攻博士後期課程 2年・通年

【必選・単位数（時間数）】 必修・2単位（60時間）・演習

【科目の内容】

看護学特別研究Ⅰをふまえ、病院や施設等で治療・療養中の重度疾患や摂食嚥下障害等の臨床症状を有する成人期から高齢期にある患者の機能向上や自立支援のために、機能再生を促進するより高度な実践看護の開発に関連する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。

【授業計画】

【成績評価方法】

回数	授業計画	教員氏名	備考
1-8	プレテストもしくはパイロットスタディ	千葉由美	
9-14	研究計画書に基づくデータ収集		
15-22	研究プロトコールに基づくデータ解析		
23-28	分析結果の妥当性の検証		
29-30	博士論文中間審査会に向けた準備と研究指導		

フィールドワークおよび学習姿勢：20%、研究論文中間サマリー：80%

【教科書・参考書等】

- ・ Clifford S. Deutschman(2019). Evidence-based practice of critical care. 3rd edition. Elsevier.
 - ・ George M. Hall(2020). How to write a paper. 5th edition. BMJ Books.
 - ・ Sharon E. Straus, Paul Glasziou(2018). Evidence-based medicine: How to practice and teach EBM. Elsevier.
 - ・ Barbara Gastel et al.ed(2022).How to write and publish a scientific paper 9th edition. Greenwood.
 - ・ Peter X. MA ed(2014).Biomaterials and regenerative medicine. Cambridge.
 - ・ Asok Mukhopadhyay, ed(2018). Regenerative medicine: Laboratory to clinic. Springer.
 - ・ Wahid Serpushan ed(2019).Cardiovascular regenerative medicine. Springer.
 - ・ Ayse Begum Tekinay ed(2019). Nanomaterials for regenerative medicine (stem cell biology and regenerative medicine). Humana Press.
 - ・ Janthorsten Schantz(2015). Advanced therapies in regenerative medicine (Current therapies in regenerative medicine). World scientific.
 - ・ American nurse association(2016). Transplant nursing-Scope and standards of practice 2nd edition. Nursing standards.
- 他、国内外の専門誌を中心に適宜提示する。

【SDGs ゴール目標】

3、4、17

【看護学特別研究Ⅲ（機能再生看護学）】

【責任教員】 千葉由美

【担当教員】 千葉由美

【学年・期】 医学研究科看護学専攻博士後期課程 3年・通年

【必/選・単位数（時間数）】 必修・4単位（120時間）・演習

【科目の内容】

看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、病院や施設等で治療・療養中の重度疾患や摂食嚥下障害等の臨床症状を有する成人期から高齢期にある患者の機能向上や自立支援のために、機能再生を促進するより高度な実践看護の開発に関連する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。

【授業計画】

回数	授業計画	教員氏名	備考
1-6	先端機能再生看護に向けた研究データの解析結果の解釈	千葉由美	
7-12	先端機能再生看護に向けた研究データの解析結果の統合		
13-18	研究論文の論旨の明確化とコンストラクション		
19-24	研究論文の執筆と構成（1）		
25-30	研究論文の執筆と構成（2）		
31-36	研究論文の執筆と構成（3）		
37-41	研究論文の推敲（投稿を含む）（1）		
42-47	研究論文の推敲（投稿を含む）（2）		
48-53	研究論文の推敲（投稿を含む）（3）		
54-60	博士論文の完成		

【成績評価方法】

プレゼンテーションおよび学修姿勢：20%、研究論文の完成度：80%

【教科書・参考書等】

- ・ Clifford S. Deutschman(2019). Evidence—based practice of critical care. 3rd edition. Elsevier.
- ・ George M. Hall (2020). How to write a paper. 5th edition. BMJ Books.
- ・ Sharon E. Straus, Paul Glasziou(2018). Evidence-based medicine: How to practice and teach EBM. Elsevier.
- ・ Peter X. MA ed(2014). Biomaterials and regenerative medicine. Cambridge.
- ・ Asok Mukhopadhyay, ed(2018). Regenerative medicine: Laboratory to clinic. Springer.
- ・ Wahid Serpushan ed(2019). Cardiovascular regenerative medicine. Springer.
- ・ Ayse Begum Tekinay ed(2019). Nanomaterials for regenerative medicine (stem cell biology and regenerative medicine). Humana Press.
- ・ Janthorsten Schantz(2015). Advanced therapies in regenerative medicine (Current therapies in regenerative medicine). World scientific.
- ・ American nurse association(2016). Transplant nursing-Scope and standards of practice 2nd edition. Nursing standards.

他、国内外の専門誌を中心に適宜提示する。

【SDGs ゴール目標】

【看護学研究論演習】

【責任教員】 千葉由美

【担当教員】 千葉由美

【学年・期】 医学研究科看護学専攻博士後期課程 1年・通年

【必/選・単位数（時間数）】 選択・1単位（30時間）・演習

【科目の内容】

各専門領域における看護学研究のプロセスにおいて、研究者あるいは高度な専門的な業務を遂行する実践者の活動成果を国際的に発信していくための基本的な知識と技術の修得を図る。

【授業計画】

回数	授業計画	教員氏名	備考
1-2	What is a scientific paper Structure of a scientific paper Structure of an international presentation : oral and poster (1)	千葉 由美	博士前期課程「看護研究方法論演習」との合同授業
3	Structure of an international presentation : oral and poster (2)	千葉 由美 H MacCallum	
4	Structure of an international presentation : oral and poster (3)	千葉 由美 H MacCallum	
5-6	Scientific writing (1) Introductions Materials and methods	千葉 由美	
7	Scientific writing (2) Effective tables, graphs and photographs	千葉 由美	
8	International presentation practice: conference style Discussion	千葉 由美 H MacCallum	
9	Scientific writing (3) Results	千葉 由美	
10-11	Scientific writing (4) Discussion Acknowledgement References	千葉 由美	
12-13	Scientific writing (5) Title, abstracts, and authors Who should be an author How to write a letter	千葉 由美	
14-15	Electronic submissions, preprint, and open access, etc. Style : what it is and why it matters	千葉 由美	

【成績評価方法】

プレゼンテーションおよび討論：80%、レポート：20%

【受講上の注意・準備性】

- ・各回の授業に向けて提示した事前課題を準備した上で参加に臨むこと。
- ・指定する資料等の内容を確認するとともに、主体的な参加をするよう期待する。

【教科書・参考書等】

- ・George M. Hall(ed.) (2012): How to write a paper. 5th edition, Blackwell Publishing. 他、適宜、提示する。

【SDGs ゴール目標】